

<p>漢字の書と楷書の学習です。</p> <p>楷書は一点一画を明瞭に書く書体で、現在日常生活で最も広く用いられています。普段何気なく書いている文字ですが、基本点画等にも名前がついていて意外に思うかもしれません。</p> <p>* このレポートは半紙提出があります。</p>
<p>問一</p> <p>語句を答える問題です。NO.1 のレポートより出題範囲が広いので大変だと思いますが、一年間書道の授業を受ける上で大切な語句もあります。設問の下に該当ページが載っていますので、丁寧にみてください。P140～146 には用語説明されています。</p>
<p>問二</p> <p>教 P16・17 に載っています。難しい漢字も出てきますがよく見て解答してください。</p> <p>① 起筆は線の書き始め、収筆は書き終わり、送筆は起筆と収筆をつなぐところです。</p> <p>② 縦画にはその収筆の書き方によって名前がついています。漢字の意味とそれぞれの画を見てもらうと、なるほどと納得してもらえるとおもいます。</p> <p>③ 永字八法は「永」の字を八つの部分に分解し、これを楷書の基本点画として学習するものです。</p> <p>* 漢字を答える問題では、正しく漢字を書くようにしてください。</p>
<p>問三</p> <p>唐の四大家の活躍した唐時代は、およそ 300 年も続き軍事的にも政治的にも安定した時代でした。その中で文化的にも成熟し、特に初唐の太宗皇帝のころには書道の世界にも「初唐の三大家」とよばれる人たちが活躍しました。</p> <p>唐の四大家については㊦P20～35・㊧P26～37 をみてください。</p> <p>① 生没年は筆者の生まれた年と亡くなった年のことです。古典の書かれた年ではありません。</p> <p>㊦P32・33 をみてください。</p> <p>② 好きな古典については、上記の四大家に北魏の時代の書を加えた 5 つの古典から選んでください。P20～35 です。理由には教科書に載っている古典の特徴を書くのではなく、自分の考えを書いてください。</p> <p>* 北魏の書は碑、磨崖碑、造像記、墓誌銘、写経の五つに大別できますが、鄭羲下碑は磨崖碑の代表的作品の一つです。磨崖碑とは、山の岩肌に直接刻まれた文字のことで、独特で力強く雄大な味わいがあります。この下碑は中国山東省の雲峰山に、上碑は天柱山にあります。下碑の方が文字が大きく、拓本の欠けが少なく、字の懐の広さ、線のうねりなど、六朝(りくちょう)楷書の特徴をよく表しています。牛欄造像記は龍門石窟(北魏の孝文帝が洛陽の南の龍門に作らせた、石窟寺院)の古陽洞内で紀年の記された中では最古のもので、この書の特徴は、起筆、転折、波法などが角張っていることです。これは、用筆法によるもののほか、石刻の際の刀意が加わってこのような力強いものが生まれたものと想像されます。造像記とは仏像を造った人が、その祈りの文や造像の由来を仏像のそばに刻したものをいいます。</p>
<p>問四</p> <p>挙げた 3 古典から 1 つ選んで半紙に臨書して提出してください。特徴がしっかりと表現できるように工夫しましょう。教科書の QR コードを読み込むと臨書の様子が見られます。参考にしてください。クラスと名前を書くのを忘れないようにしてください。</p>